

産後育児に直面した社会的ハイリスク馬尾 損傷患者の多職種支援にあたり作業療法士 の介入が有効であった1例

はま さき ま ゆ さか い やす お
濱 崎 真 由 酒 井 康 生
ま にわ そう きち
馬 庭 壯 吉

キーワード：馬尾損傷，社会的ハイリスク妊産婦，育児支援，療法士，信頼関係

要 旨

〈はじめに〉馬尾損傷・パーソナリティ障害を有する妊産婦の産後支援にあたり，信頼関係を築いていた作業療法士の介入が有効であった症例を報告する。

〈症例〉10代後半女性。橋上から故意に転落し，第3腰椎椎体破裂骨折・馬尾損傷と診断された。脊椎後方固定術を施行され，術後より理学療法士・作業療法士が介入したが，受傷後2ヶ月で強制退院となった。受傷後6ヶ月目に妊娠が発覚し，受傷後14ヶ月で帝王切開・出産に至った。患者は担当であった療法士を慕っており，同様の療法士が再度介入することで円滑に育児動作の評価・指導を実施できた。

〈考察〉リハビリテーション関連職種も，信頼関係をベースとして，育児動作指導・環境調整を中心に，社会的ハイリスク妊産婦の円滑な支援導入に貢献できる可能性がある。

〈結語〉産後育児に直面した社会的ハイリスク馬尾損傷患者の多職種支援にあたり作業療法士の介入が有効であった1例を経験した。

背 景

患者と医療者間の信頼関係は，その後の転帰に寄与する影響が大きいと考えられる因子の1つ¹⁾である。この度，馬尾損傷・パーソナリティ障害を併存疾患に有する妊産婦に対して，多職種

で産後支援を行い，支援導入の円滑化に信頼関係を構築できていた作業療法士の介入が有効であった症例を経験したため報告する。

症 例

10代後半女性。大量服薬・大量飲酒した後に地上から推定7～8mの高さの橋の上から故意に転落し救急外来へ搬送された。来院時より改良Frankel分類C1の不全対麻痺・両下腿以遠の重

Mayu HAMASAKI et al.

島根大学医学部附属病院リハビリテーション医学講座

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部附属病院リハビリテーション医学講座